



発行所  
 日本聖公会 東北教区  
 仙台市青葉区国分町2-13-15  
 TEL 022-223-2349  
 FAX 022-223-2387  
 振替 02210-6-2902

シリーズ「東北の信徒への手紙」  
 敵意という隔ての壁を取り壊す方Ⅱイエス

司祭 フランシス 長谷川 清純

主の平和が皆さんと共にありますように。

近頃、私は耳が遠くなつて不自由しています。「えつえつ」と聞き返す場面が多くなつて迷惑な話です。という訳で「障害」という言葉を調べますと、「障害」と書くようになったのは1947年制定の当用漢字表からでした。戦前は「障碍」「障礙」と表記しました。「碍」「礙」の意味は「障」と同じで「さしつかえる」で、「何かことを行うときにさしつかえる」ということです。「碍」は「礙」の簡略形で、「人が顧みて立ち止まり、凝止する形」を意味します。人生や社会が進んで行くとき「何か」があり災いをもたらしています。その何かの前で人は立ち止まり、じっと凝視して見る、のが「障碍」の本来の意

味です。従つて、「障碍」には深い考察が内在しており、人にとつて大切なものを伝えていく漢字なのです。

「害」とは、ものごとを傷つける漢字なので、他に対して危害を加えるとなり、「障



害」には偏見の根が隠れています。役に立つ・立たない、優性・劣性等の見方を生じさせる訳です。簡単に二者に分ける、分裂・分断させるのです。旧優生保護法や、らい予防法は著しき人権侵害、人間の尊厳を踏みにじるもの、差別を助長するものでした。今

日ではこれらの法律の誤りが正され、一応反省とお詫びがなされました。

私は、「ひかりおもちゃ図書館」でノーマライゼーションやスペシャルオリンピックスに接して喜びを覚えました。仙台基督教会2階ホールで開く、みやぎ青少年トータルサポートセンター主催自己表現コンサートで、青年たちの活き活きした姿に励まされています。7月の参議院選挙で重度の障碍をお持ちの方2名が当選し、早速バリアフリー化が実行され国会に変化を起こしています。

私たちは、意図せず分断社会に組み込まれてしまっています。ですから、私たちは神の国実現に進もうとしています。

「さしつかえているのは何か」をじっくりと黙想するのです。その際、私たちに与えられているのは「キリストの十字架」です。「御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊された(エフェソ2:14)」十字架のキリストが、私たちに今立ちほだかっている壁の

正体を明らかにします。私たちが自身で作りに上げてしまっているかもしれない壁の前で、作り上げていくこと自体の誤りの赦しを乞うとき、和解が始まるでしょう。和解は、十字架を通して確かなにされるのですから、そこに私たちの希望もあります。和解の道は決して平坦ではありませんが、キリストによって一つの霊に結び合わされることにおいて、平和へと歩んでいきます(エフェソ2:15-18)。私はそう信じています。

イエスは、人々と共に食事を取ることにおいて繋がりを救いをもたらしました。あなたが食事に招く人たちは、「貧しい人、体の不自由な人、足の不自由な人、目の見えな人、傷ついている人たち、小さい行い、わずかな光かも知れませんが、そこに恵みが確かにあつて、そこから分断を乗り越える和解が始まり、平和へ通じるものと信じています。

皆さんに神様の御祝福がありますように。アーメン  
 (仙台基督教会牧師)

# 広島平和礼拝に参加して

仙台基督教会 セント・クリストファー 赤坂 聖矢

8月5・6日に行われた広島平和礼拝に参加しました。プログラムのひとつ被爆証言では、原爆投下により妹を亡くされ、また自身も被爆された方からお話を聞きました。当時、爆心地から7km離れた自宅にいた杉山さんは、遠く空に大きな火球を見たそうです。そのすぐ後、強い爆風が襲い、雨戸や障子は吹き飛び、天井は壊れたといいます。

それは精神的ストレスによる病気だったと分かったそうですが、私はその話を聞きながら東日本大震災当時のことを思い出していました。

地震直後、ラジオで聞いた「浜に100人以上の遺体が流れ着いた」との報道は、別の国や世界の話のようで、理解することができませんでした。今思えば、突然のことであまりに現実味がなく、頭が追いつかなかったのだと思います。杉山さんもしかすると同じだったのではないのでしょうか。一瞬で今までの世界が180度変わり、現実味がなく、悪い夢の中にいるような感覚だったのかもしれない。

道中、川に浸かった遺体や道端で焼け焦げた遺体、たくさんさんの遺体を目にしたが、杉山さんはそれを「人」とは思えず、「物体のよう」だったと表現していました。後にそ

吉田主教様の説教に「平和のために普段の自分にできること」とのお話がありました。杉山さんは証言を通して、戦争の恐ろしさと平和の大切さを訴えていました。私も改めて戦争や原爆、平和について学ばねばと思い、また震災や原発事故があった東北にいる上で自身に何ができるのか、改めて考える決意をしました。

## 一日黙想会 「み言葉の導き」 仙台基督教会 マリヤ 西 正子

梅雨明け間近だった7月27日、教区奉仕職養成委員会主催の「一日黙想会」が仙台の聖ウルスラ修道院で行われました。「奉仕職」については充分理解していなかったため、講話を聴いてみたいと思い、聖ウルスラ学院は私が高校と専門学校の6年間学んだ懐かしい母校なので参加致しました。

蒸し暑い外気に比べ心地よい涼しさと静寂に包まれた修道院での黙想会は、始めは少々緊張感がありましたが、皆と聖歌を歌いお祈りをしていると自然に気持ちも落ち着いてきました。

加藤主教様から奉仕職を巡る講話があり、奉仕職は信徒全体の働きを土台として、新約聖書の時代から多様な職務があること、現代の礼拝も信徒全体が牧師（聖職者）と協力しあって献げるものであると話され、まさに今教会が守り行っている礼拝の形であるか、聖公会の信徒だった母に連れられ、兄たちと教会に通うことから始まりました。物心がついた小中学生の頃の仙台基督教会は牧師さんが2、3人常駐していた神学生も春、夏、冬休みに数名来て下さり、大人の礼拝、子どもの礼拝、日曜学校の分級や行事等を分担して守っていました。今聖職者は少なく主教様、司祭様のご負担に我々信徒はさらなる協力を果たさなければならぬと強く思っています。

講話で「ローマの信徒への手紙第12章1節―8節」を読み、この箇所がパウロの献身の勧めは「神が与えて下さる賜物は一人ひとり異なるけれど神の恵みによって互いに必要とされるのだからその業を進んで実行しなさい」と述べています。私たちクリスチャンの要である「心からの奉仕」を実践し、主のみに適うよう残りの人生を送りたいと思います。

講話で「ローマの信徒への手紙第12章1節―8節」を読み、この箇所がパウロの献身の勧めは「神が与えて下さる賜物は一人ひとり異なるけれど神の恵みによって互いに必要とされるのだからその業を進んで実行しなさい」と述べています。私たちクリスチャンの要である「心からの奉仕」を実践し、主のみに適うよう残りの人生を送りたいと思います。

（新地町・広畑お茶会）8月はお休みいたしました。  
（新地町・水曜喫茶）21日に開催。参加者、地域から6名、スタッフ3名参加。  
（お買い物支援）毎週木曜日午前中に継続中。  
（被災地巡りツアー）31日に盛岡を起点に岩手県の大槌町および釜石のとくに鶴住居を訪ねるツアーを実施。参加者は盛岡聖公会を中心に11名、スタッフ2名が参加しました。小型バスをチャーター。  
（今後の課題）5月に仙台において開催された「原発のない世界を求める国際協議会」の声明が発表されています。「管区事務所だより」7月25日号掲載。その中で8項目の全教区・教会への「呼びかけ」がなされており、例えば「福島週間（仮称）」の設置等が提案されています。東北教区は大切な役目を担うべきと思われませんが、それらを巡る考え方、具体的な可能性について協議をしています。

東日本大震災被災者支援プロジェクト（8月の報告）

### ユースキャンプに参加して 聖パウロ幼稚園 教諭 種綿 梨乃

初めてのキャンプ参加で、参加者の皆さんとの出会いにちよっぴり緊張してのスタートでした。しかし、ゲームや一緒に夕飯づくりをするうちに少しずつ打ち解け、初めての共同製作である、カレーライスができてくる頃には、

あちらこちらから笑い声が聞かれ楽しい1日目の夕食会になりました。2日目は盛岡聖公会に移動し、聖餐式に全員で出席するの何だか新鮮な気持ちでした。その後、グループで吟味して決めた目的地を目指し盛岡の散策へ。冷麺、じゃじゃ麺、そして観光スポット、圧倒的に食べ物を中心だったようです。あつという間の最終日、振り返りの時間には、それぞれが感じたことを率直に話し合える仲間になっていて、終始和やかな雰囲気の中で、このキャンプは終了しました。

一人ひとりが居心地よい雰囲気の中でキャンプを楽しもうと自然に言葉を交わしながら過ごしたゆとりのある3日間でした。楽しく過ごしたこの素敵なキャンプに参加できたことをとても嬉しく思っています。これからもここで出会った皆さんとの横のつながりを大切にしていきたいと感じました。



ご協力・応援いただいた皆さんに心から感謝し、また次に会えることを楽しみにしながら過ごしていこうと思います。

### 常置委員会報告 第12回 9/10

1. 仙台市まちづくり政策局 定禅寺通活性化室の取組に地権者として関わる件

既述の政策局より田中空長を招き、活動状況を聴き、定禅寺通の活性化、環境問題等の取組に、一地権者である東北教区として参与することを決議。

2. 第102(定期) 教区会 関連事項

9月10日付で公示。常置委員会関連報告、議案について整理。初日の「教区宣教に関する協議と研修」は、「ミッシェン・ステートメント採択に向け(仮)」のテーマで展望会議に発題を委任。

3. 「社会事業の日」奉献先の推薦について

日本聖公会社会福祉連盟より依頼のあった「社会事業の日」の奉献先について協議、2施設の推薦を決め聖社連に回答することを確認。

### 礼拝堂探検隊

礼拝堂にあるいろいろなもの、その意味を調べてみました。

#### (第5回 聖堂①)

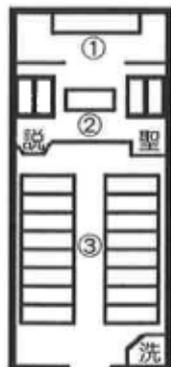
聖堂 入口脇にある洗礼盤をちらりと見ると、洗礼の約束を思い起こした私たちは、聖堂の中に入っていきます。

その前に、聖堂の全体像を見てみましょう。もともと、初代教会の頃、キリスト者は特別な集会所をもっていました。聖パウロの頃は比較的大きな家を持っていた信徒宅が主日に礼拝場所として提供されたようです。また、迫害時代には信徒宅以外に、こっそりと人目につかない場所に集まっていたようで、ローマのカタコンベ(地下墓地)は有名です。

しかし、313年のミラノの勅令によってキリスト教が公認されると、特定の礼拝場所として聖堂が建てられるようになりまし。これらはパシリカ様式と呼ばれますが、当時のローマの法廷などの建物で、そのまま教会建築に応用されたようです。

その後、時代と共に建築様式はビザンティン、ロマネスク、ゴシックなどと移り変わっていきますが、その基本はパシリカ様式にあるようです。聖公会の多くの聖堂もこの様式を基本にしていて、その最も単純な形が左の構造です。

①は祭壇が置かれているサンクチュアリー sanctuary (至聖所)、②は朝夕の礼拝が行われるチャンセル chancel (聖所または内陣)、③はネイヴ(身廊)と呼ばれる会衆席の場所です。



聖堂は原則として祭壇のある部分が東方になるように建てられました。そこで祭壇のある方を「東 (Liturgical East リタリカル イースト)」と呼びます。聖堂が実際に東西方向に建っていない場合でも、祭壇のある方を「東」と呼び、その反対方向を「西」と呼ぶのが慣例です。ですから祭壇の方を向くことを「東面する」と言います。

(教区主教)

# 北から 南から

## 米沢聖ヨハネ教会

いくつもの感謝の中で

月に2回の聖餐式とみ言葉の礼拝が続けられております。4月21日(日)の復活日には、管区事務所総主事のヨシユア矢萩新一司祭の司式説教で、聖餐式が捧げられ感謝です。当日早朝に東京を車で出発され、中2のお嬢さんと4時間余で到着されました。教会の桜が満開の名残を残して、信



6月16日(三位一体主日) 高山 すすきさんの満100歳を祝って

徒と一緒に歓迎いたしました。教会の案内板には、教会設立1920年と記されています。早めですがその感謝・記念の礼拝と恒例の「いも煮会」を計画しております。

今年にはエステル高山すすきさんの満100歳のお祝いの年です。6月16日(日)には、管理牧師吉田主教司式の聖餐式の折に、教区婦人会敬老基金運営委員会からの、満100歳のお祝い金と吉田主教からの記念の式紙を差し上げることができました。愛餐会では手作りのお赤飯とケーキもあつて、楽しいひと時を過ごしました。第3主日の礼拝後には、吉田主教に「聖書」と「教会の葬儀」についての堅苦しくない学びの時を、隔月にご利用しております。

6月23日(日)、渡部拓司祭の按手後、米沢で最初の聖餐式に与り、按手式で感じられた熱い思いを込めた説教をお聞きして、主の食卓を囲みました。

体調や諸事情で礼拝に加われない方々を覚えて、毎週お祈りしています。

(ヨハネ 小貫 晃義)

## 十和田湖畔ヴァイアル山荘 ・鉛山聖救主礼拝堂

### 十和田湖畔 夏の祈り

8月6日(火)

11時から鉛山聖救主礼拝堂において主イエス変容の日と広島平和記念日を覚えて、十和田湖の素晴らしい自然の中で、「夏の祈り」のときを持ちました。

八戸から5名、大館から3名、弘前から4名、青森から5名、仙台から1名、そしてナザレ修女会夏の家に来ておられた美代志修女とお手伝いの斉藤冴子姉が加わり、男11名、女9名、計20名の出席で、聖餐式をおささげしました。



このときのことを少しでも分かるように、礼拝の中で「わたしがちいさかったときにー長田新編(原爆の子より)」(童心社)の中の木村暹さんの作文を読みました。

礼拝後に場所をヴァイアル山荘に移し、それぞれに持ち寄ったお弁当をいただきながら、懸案の今後の山荘の用い方について相談しました。

とりあえず9月は八戸聖ルカ教会が、10月は青森聖アンデレ教会が管理すると決めました。今、山荘建替えに備えて敷地の測量をしています。境界線を確認する難しい作業ですが、次の段階に行けるようにと願っています。

(司祭 フランシス 中山 茂)

2000年前、ペトロ、ヨハネ、ヤコブはイエス様の白く輝く栄光の光を見たのですが、今から74年前、1945年8月6日に、広島では原爆の悲惨な光を見たのでした。

10月27日(日)は「社会事業の日」です。社会事業の働きを覚えて祈り、献金をお献げください。

**10月逝去者記念聖餐式**  
10月8日(火)午前10時  
於 主教座聖堂  
司式 吉田 雅人 主教  
説教 長谷川清純 司祭

司祭 駒野 義夫

1946年10月5日逝去  
司祭 William Franklin Draper

1999年10月9日逝去  
執事 ヨセフ 山本 清司

2003年10月 清司

宣教師 Miss Gladys Gertrude Spencer

1960年10月11日逝去  
司祭 ポーロ 滝口 三郎

1976年10月12日逝去  
伝道師 度会 伝吉

1928年10月15日逝去  
伝道師 吉津愛一郎

1976年10月18日逝去  
司祭 宅間 六郎

1955年10月23日逝去  
宣教師 Miss Bessie Mead

1954年10月25日逝去  
司祭 ステパノ 木村 兵三

1968年10月25日逝去  
司祭 F.C.Meredith

1926年10月27日逝去  
伝道師 蛸崎 佐久

1904年10月29日逝去

